

救拯 (きゅうじょう)

シリーズ～新約聖書入門～

2017/2/26

パウロの回心

- ステファノの殉教を目撃する(使徒7章)
 - 石を投げる人々の上着の番をしていた
- 教会を荒らし、クリスチャンを捕らえる
 - 「サウルは家から家へと押し入って教会を荒らし、男女を問わず引き出して牢に送っていた。」8:3
- 迫害のため赴いたダマスコでイエス様に出会う(9章)
 - 突然天から光がさし、イエス様が語りかけられた
 - 「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」
- 回心し、迫害者から宣教者になる

アンティオキア教会で教える

● アンティオキア教会の誕生

- 「ステファノの事件をきっかけにして起こった迫害のために散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで行ったが、ユダヤ人以外のだれにも御言葉を語らなかった。しかし、彼らの中にキプロス島やキレネから来た者がいて、アンティオキアへ行き、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、主イエスについて福音を告げ知らせた。」11:19-20

● パウロとバルナバ、アンティオキア教会で教える

- 「このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。…それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間そこの教会と一緒にいて多くの人を教えた。」11:22,25-26

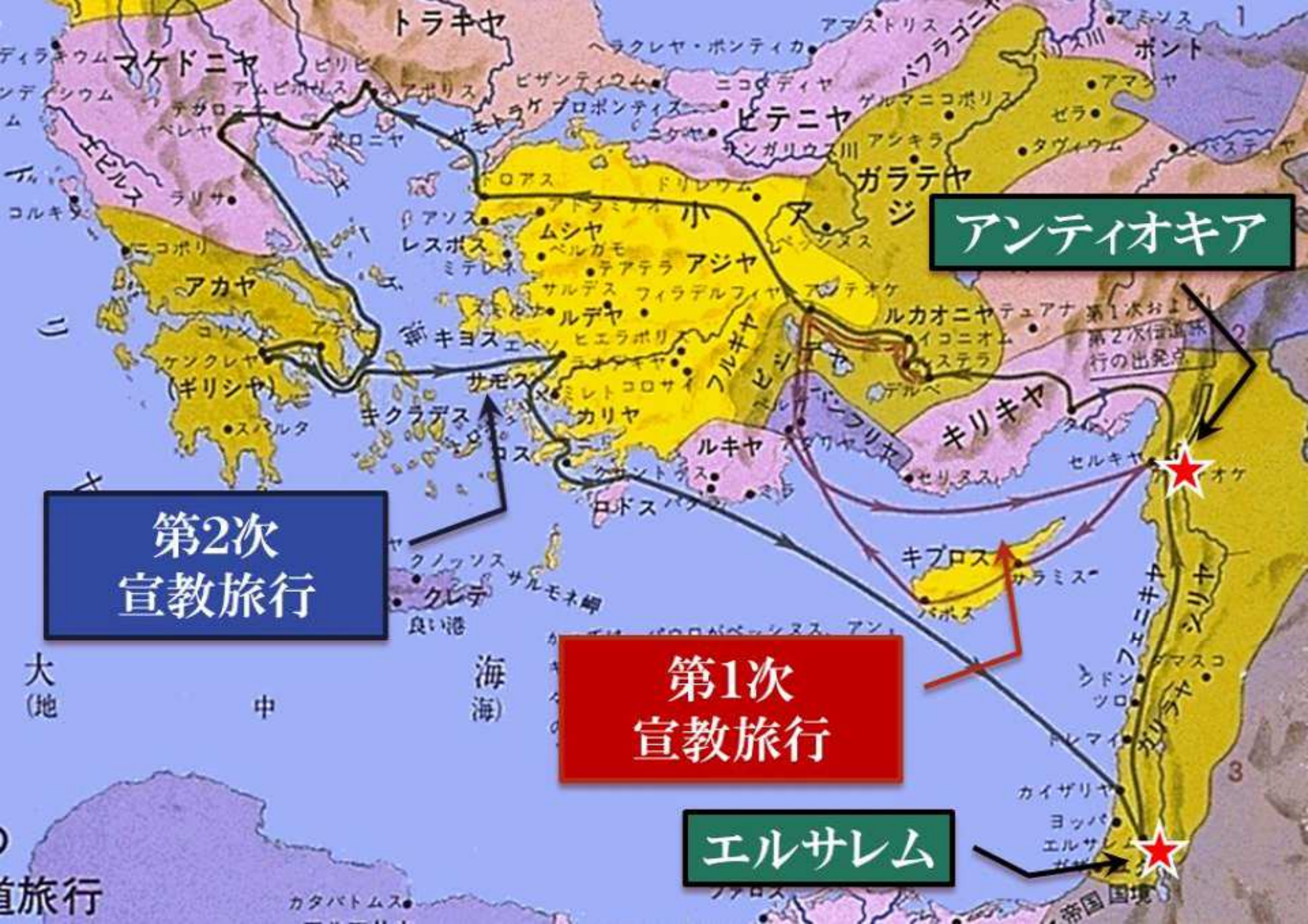
バルナバとパウロ,派遣される

● 聖霊のお告げ

- 「彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。『さあ、バルナバとサウロをわたしのために**選**び出さなさい。わたしが**前もって二人に決めておいた仕事**に当たらせるために。』」13:2

● 第1次宣教旅行(13~14章)

- キプロス島>小アジア中南部>アンティオキア
- リストラで石打ちにあう
 - 「ところが、ユダヤ人たちがアンティオキアとイコニオンからやって来て、群衆を抱き込み、パウロに石を投げつけ、死んでしまったものと思って、町の外へ引きずり出した。」14:19



アンティオキア

第2次
宣教旅行

第1次
宣教旅行

エルサレム

道旅行

帝国国境

更に遠くへ

- 第2次宣教旅行(15:36～18:22)
 - バルナバと別れ陸路小アジアへ
 - 幻を見たのでエーゲ海を渡りマケドニアへ
 - フィリピで投獄されるも,獄吏一家が救われる
 - アテネ,コリントなどの大都市で宣教する
- 第3次宣教旅行(18:23～21:17)
- ローマへ(21:17～28:31)
 - エルサレムで逮捕され,皇帝に上訴する
 - 長い牢獄での生活,大変な航海を経てローマへ
 - 軟禁状態で2年間

ローマ

第3次
宣教旅行

ローマ行き



数え切れない困難を乗り越えて

苦勞したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。しばしば旅をし、川の難、盜賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともありました。このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかい事、あらゆる教会についての心配事があります。

<コリント二11:23-28>

ローマ1章14～17節

わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、**果たすべき責任**があります。…わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに**救いをもたらす神の力**だからです。福音には、**神の義**が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

なぜパウロは伝道し続けたのか？

- すべての人は救われなければならない
 - 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています」ローマ3:23 → **皆, 創造主から離れている**
 - 福音はすべての人を救うことができる
- 「神の義」の実現
 - イエス・キリストによって神の前に正しく生きる道が与えられた ← **律法では不可能だった!**
- 果たすべき責任 (返さなければならない **負債**)
 - 人々に対する負債と言うよりも, こんな自分を救って下さった神に対する負債

テモテー1章15～16節(新改訳)

「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。**私はその罪人のかしらです。**しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。